

3 本校のキャリア教育推進の歩み

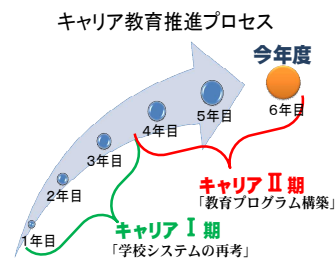
1 本校のキャリア教育推進

個々の児童生徒のキャリアは、生涯にわたって、様々な役割を果たす経験をとおして、環境との相互作用によって発達・変化します。学校教育段階は「学ぶ」役割が中心となり、卒業後においては、職業人として「働く」役割が中心となります。学校教育段階は、生涯にわたって発達・変化していくキャリアの土台づくりの時期です。この共通認識のもとキャリア教育を推進しています。

キャリア教育の充実方策として、中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(H23. 1. 31)第2章において、以下のように、発達の段階に応じた体系的なキャリア教育の充実方策が8つ挙げられています。

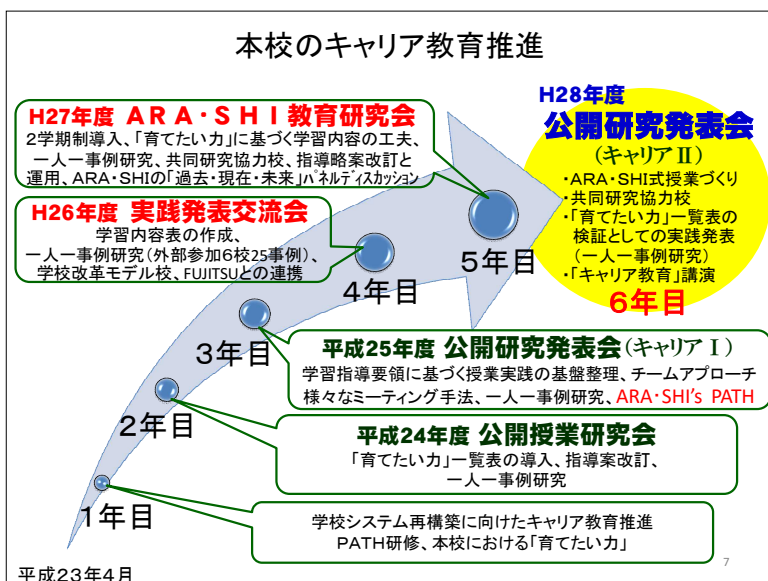
- ①各学校におけるキャリア教育に関する方針の明確化
- ②各学校の教育課程への適切な位置付けと、計画性・体系性をもった展開
- ③多様で幅広い他者との人間関係形成等のための場や機会の設定
- ④社会・経済の仕組みや労働者としての権利・義務等についての理解の促進
- ⑤体験的な学習活動の効果的な活用
- ⑥キャリア教育における学習状況の振り返りと、教育活動の評価・改善の実施
- ⑦教職員の意識や指導力の向上
- ⑧効果的な実施のための体制整備

本校では、これらの方策のうち、①②⑤⑥⑦⑧に重点を置いてキャリア教育を推進しました。また、本校では、平成23年度から平成25年度までの3年間をキャリアⅠ期、平成26年度から平成28年度までの3年間をキャリアⅡ期とし、それぞれ「学校システムの再考」と「教育プログラムの構築」を柱にキャリア教育を推進してきました。



2 本校における教育上の課題

児童生徒は「学ぶ」ことをとおして、多くの影響を受けており、教師は個々の児童生徒が学習をはじめとする様々な物事に向き合うための必要な支援の充実を図る必要があります。とりわけ本県における知的障害教育は大きな転換期にあり、新しいものを創生すると言うよりは、今までの歴史と伝統を基盤に、過去から現在、そして明日へと「つなぐ」教育が問われています。

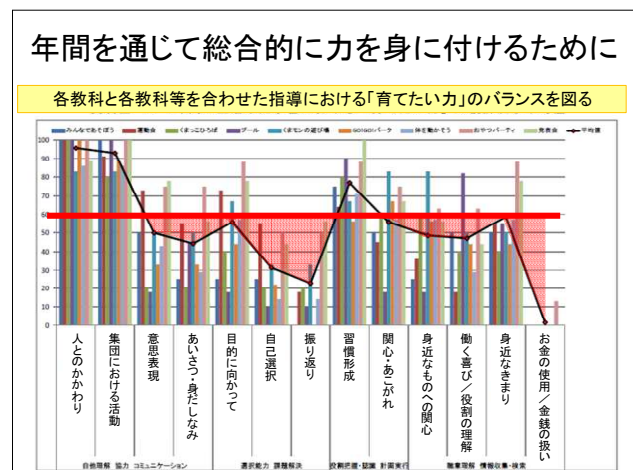
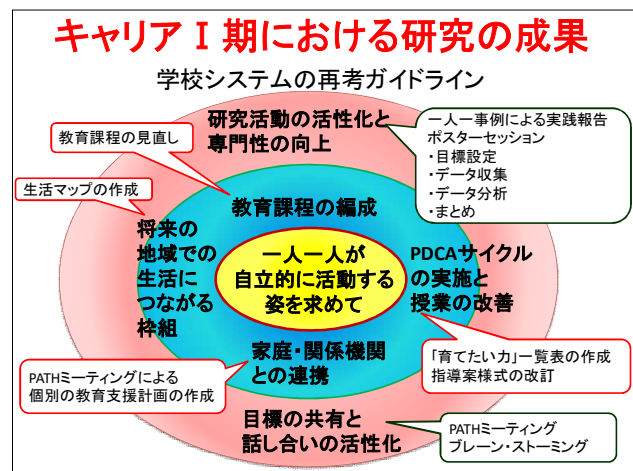


本校がキャリア教育を推進した平成23年度以降において、この「つなぐ」教育に取り組み、特に、平成24年度以降、公開授業研究会や研究発表会等により、授業実践の取組を発信し、外部評価を受けながら、そこで得た成果をつなげ、さらに明らかになった課題を明確にし、次年度の指針としてきました。

キャリアⅠ期における実践研究により、児童生徒の捉え方、教科別の指導や自立活動の充実、ミーティング手法や会議の在り方の工夫による効率化と負担感軽減等の成果を得ました。その成果の一つである『キャリア発達における「育てたい力」一覧表』（以下「育てたい力」一覧表）を、各教科等を合わせた指導において運用し、年間を通じて「育てたい力」を育む学習活動が、一定の頻度で設定されたかを検証しました。その結果、1年間で設定した「育てたい力」と実際に身に付けさせたい力に隔たりが見られました。そこで、「育てたい力」一覧表にかかげる「かかわる力」「きめる力」「はたらく力」と学習指導要領に示される各教科の目標や内容、観点等との整合性を図り、各教科等を合わせた指導における育てたい力と教科別の指導で育てたい力でバランスを図ることができないかという課題が挙げられました。それと同時に、断片的な教科指導になっていないか、自立活動の視点を踏まえているか、系統性・発展性・個々の児童生徒の発達の視点に立った授業を行っているか、また、年間を通じて育てるのか、小学部の6年間あるいは中学部・高等部の各3年間で育てるのかが明確ではない等の課題点が挙げられました。

キャリアⅡ期においては、これまでの研究を深め広げる実践研究を念頭に置き、個々の児童生徒のキャリア発達を支援するため、教育活動全体を計画的にしかも系統性・発展性・一貫性のあるものにできるよう、指導内容や指導方法の具現化とより実践的な取組の充実を図るという方向性を得ました。そこで、本校がキャリア教育推進の中心に据えている「育てたい力」一覧表を活用した教育実践の積み重ねと、それを手掛かりとした個々の児童生徒の育ちに着眼した実践研究に取り組むこととしました。

授業改善や教育課程の編成における体系的な取組では、授業づくりを柱に据え、学習内容の根拠を見いだしながら、学習内容や評価方法の工夫により授業づくりプロセスの定着を図ることとしました。



3 本校のキャリア教育推進及び研究活動の歩み

研究活動 (目的)	平成23年度 (2011)	平成24年度 (2012)	平成25年度 (2013)	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)
	← キャリアⅠ期		→ キャリアⅡ期 →			
キャリア教育推進	「育てたい力」の作成 ●キャリア教育における重要な視点 ●キャリア教育を進めるにあたって		「育てたい力」一覧表の運用			
	●公開授業研究会		●研究発表会 (キャリアⅠ期)	●実践発表交流会	●ARA・SHI教育研究会	保護者連携リーフレット ●研究発表会 (キャリアⅡ期)
学校システムの再考(学校改革)	●障害観 ●研究における重要な視点 ●文言整理 ●PATHミーティング		一人一事例研究の取組			
	キャリア教育を踏まえた指導案の運用		学校改革プロジェクト 支援事業モデル校			
					県立教育センター 共同研究協力校	継続
					指導案の改訂と運用 指導と評価の一体化	
教育プログラム構築				学習内容表の作成		○スタイルの運用
教育課程編成	これまでの教育内容を軸に改善		教科を軸に他の指導形態とのバランスを図る			
		教務部・研究部連携				
						体系的な学習評価

WZU・レWフタサノケウ・トヤZ

▶これまでの本校のキャリア教育の視点を踏まえた研究推進の歩みです。平成23年度からの6年間の取組から、課題としてきた事柄、時期、活用したツール、研修企画等が分かります。その中で、平成24年度以降一人一事例研究によって、教職員の専門性の向上を図ってきたこと、学習内容や評価方法がキーワードになっていること、教科別の指導と他の指導形態との指導内容のバランスを図ることが、本校研究活動の特色と言えます。